



# エコー・ニュースレター

Environmental Consultants for Ocean and Human

第 64 号

(令和5年10月3日発行)

## エコー創立49周年記念式典・社員表彰式

当社は、令和5年9月3日に創立49周年を迎え、9月1日に『創立記念式典』を開催いたしました。これも日頃の皆様からのご愛顧の賜によるものであり、皆様へ感謝申し上げますとともに、引き続き皆様のご期待に応えられるようこれからも日々精進して参ります。

また、例年、創立記念日に合わせて『社員表彰式』を実施しています。今年度は、顕著な業績や社業への貢献のほか、TOEIC 達人賞など 48 件が選定され、受賞者には社長から表彰状及び報奨金の授与が行われました。



創立記念式典・社員表彰式の様子

## 退任のご挨拶

### ◆ 相談役 伊坂 充

2023年6月末に相談役を退任致しました。入社以来49年間の会社人生の幕となりました。

私は 1974 年 4 月に旧日本テトラポッド(株)に入社し、1982 年 4 月に(株)エコーに出向、2000 年 4 月に(株)エコーに転籍し、本年の退職を迎えました。その間、河川環境関連の調査計画業務実施、その後経営マネージメントを担当し専務、社長、会長等を経験しました。その中でも印象に残るのは、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災に遭遇し、その災害復旧関連業務やその後の防災検討業務に対応するための全社横断的なプロジェクト設置等であります。

会社人生を振り返って、先輩、同僚、後輩に指導され、支えられ、大過なく無事に卒業出来たことは望外の喜びです。何よりも増して、発注者の皆様によるご指導、ご鞭撻によるところが大きく、ここに感謝申し上げます。

今後とも(株)エコーのマインドである「高度な技術力による誠実な対応と、それを支える地道な営業努力」を着実に継続すると思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



### ◆ 顧問 児玉 理彦

様々な部署を経験しましたが、総じて波乱重畳の 48 年間でした。エコーでお世話になりました最後の 22 年間は、皆様のおかげで大過なく勤め上げることができたと思います。ありがとうございました。自分がどれだけ役立ったかは分かりませんが、会社の経営状況がより安定したことは嬉しい限りです。ただ今後、日本のインフラ事業にはあまり期待できません。会社をより発展させるためには、保有する最先端の技術の海外活用、言い換えれば優秀な人材が海外で活躍することだと思います。皆様の今後のご活躍を祈念します。



### ◆ 営業部 茨城事務所 部長 鈴木 慎一（関東地区港湾整備・振興協議会 推薦）

この度、関東地区港湾整備・振興協議会様からのご推薦により、港湾功労者表彰を頂戴するという栄誉に預かり、誠に嬉しく思っております。このような賞をいただいたことは、ひとえに、茨城県の港湾行政に携わってきた諸先輩・同僚の皆様からのご指導・ご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

私は、茨城県に在職中、通算 13 年間に渡って港湾行政に携わってまいりました。

平成元年に日立港湾事務所に配属となり、その後、大洗港湾事務所、港湾課、常陸那珂港湾事務所と連続 12 年間に渡って港湾業務を務めてまいりました。当時は各港湾とも港湾整備の最盛期であり、日立港の第四ふ頭の整備、公共施設としては県内初の大洗港のマリーナ整備、常陸那珂港の廃棄物処理施設の整備などを担当させていただき、非常に忙しい中ではありましたが、実に充実した日々を送っていたことが思い出されます。

港湾整備はその規模や予算も他の公共事業とは桁外れに大きく非常にやりがいのあった業務であったことを記憶しております。私が携わった施設は、その後担当した方々による維持管理のおかげもあり、現在もしっかりとその機能を果たしているところを見ますと、県に入職して土木行政に携わった約 40 年間の中で、形あるものを残せたことは私自身に誇りが持てる気がいたします。

その後、10 年以上を経て再び保安調整監として港湾行政に携わることができました。

通算 13 年間港湾行政に携わったこの経験は、私の人生にとって非常に大きな財産となっております。

現在、株式会社エコーの社員として引き続き港湾業務に携わらせていただいております。

微力ではありますが、今後も茨城県の土木行政、とりわけ港湾行政の発展のためお手伝いさせていただきたいと考えておりますので、今後とも、皆様のご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



### ◆ 事業管理部 技師長 仲井 圭二（一般社団法人 港湾技術コンサルタンツ協会 推薦）

この度、一般社団法人港湾技術コンサルタンツ協会様からのご推薦により、港湾功労者表彰を頂きました。同協会及び株式会社エコーの関係各位に心からお礼申し上げます。

大学院修士課程で海洋物理学を専攻し、1986 年 4 月に財団法人日本気象協会に入り、2003 年 2 月には現在の株式会社エコーに移りました。現在まで 37 年間勤務していますが、その期間のうちの大部分、港湾関係の業務、特に気象・海象を扱った調査・研究に従事してきました。特に印象に残っているものを以下に挙げます。

#### (1) オンラインの波浪予測システム開発

気象庁から配信される GPV（気象数値予報格子点データ）を用いて、1 週間先までの波浪予測を行うシステムを開発し、海洋工事の現場に配信しました。財団法人沿岸技術研究センターが運用する COMEINS の基になるシステムです。

#### (2) 沿岸の長周期波に関する研究

全国の外洋に面した港湾で問題になっている長周期波について関心を持ち、研究を行いました。働きながら九州大学大学院に進学し、橋本典明先生（現、一般財団法人沿岸技術研究センター）にご指導頂いて、2013 年 12 月には博士号（工学）を授与されました。

ただただ目の前のことに関心を持って取り組んで来たら、37 年間経ってしまいました。業務が重なって締め切りに追われるなど、色々大変なことはありましたが、基本的に自分自身で工夫して内容を提案・実施できるという点が、私に合っていたのだと思います。また、私の仕事が港湾の業務にいくばくかでも役立ったと評価して頂いたことをとても嬉しく思います。

今回の表彰は、これまでの仕事について振り返る良い機会となりました。非常に多くの方々と良いご縁を頂いた結果であると、改めて感謝致します。まだしばらくは同じ職場で、観測データを素直に見つめる仕事を続けていきます。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



◆ 第5話 「農大博物館」

最初に少しだけ前回の復習。その後、白麹のお酒を呑む機会がありました。「磐城壽」と「東鶴」でしたが、どちらもやや酸味があってさっぱりとした味でした。夏に呑むにはいいかもしれません。

さて、今回の話は、東京農大。農大というと、すぐ「大根踊り」と思ってしまうのは、おじさんの証拠でしょうか。最近、箱根駅伝でもなかなか見られないのが残念です。一方で、私的には、近年の農大と言えば日本酒、その勢いが止まらないという感覚です。

10年ほど前、世田谷区用賀に住んでいた頃、徒歩圏内に農大があり、数回中に入ったことがあります。普段のキャンパス内はごく普通、特に農大だからどうという雰囲気はあまり感じません。しかし、すぐ近くにある博物館に足を踏み入れると、驚きの光景が・・・。

農大キャンパスから道路を挟んで向かい側に、東京五輪の馬術競技にも使われた JRA 馬事公苑があります。その馬事公苑の入り口あたりにあるのが農大の『「食と農」の博物館』です。植物園も併設されていて他にも見所がありますが、私的には何と言っても2階にある「卒業生の蔵元紹介」コーナーです。醸造科学科（旧醸造学科）卒業生が関わる蔵元の瓶が（HPによると280本）並んでいるのですが、「この銘柄も農大、こっこの銘柄も農大・・・、私が知っているお酒は全部農大がらみなのでは・・・。」と思わせるほど、名だたるブランドの品評会のようになっています。農大無くして、今の日本酒はあり得ない、そんな印象を与えられます。少なくとも、昨今の日本酒の発展に同大同学科が大きな貢献をしているということは間違いのないと思います。残念ながら、博物館なので、並んでいるのはすべて空瓶で、お酒が飲めるわけではありませんが。

農大HPから、博物館、蔵元紹介コーナーの概要を見ることができますので、興味のある方はそちらまで。



常務取締役  
片山 昭



社内トピックス

◆ コラボスペースの新設

社内の休憩スペースの確保及び社員同士のコミュニケーションの場を創造することを目的として、本社ビルの2階に『コラボスペース』を新設しました。休憩時や昼食時に自然な会話の機会が生まれたり、定時後に食事やゲームを通じて親睦を深めたりできるスペースとなることを期待しています。おすすめポイントは、普通のテーブル兼卓球台としても使えて、運動不足解消にもなる？「ピンポンワークテーブル」です！（写真右）



コラボスペース内観

◆ SDGs への取組み「Jブルークレジット®」の購入

この度「尾道の海のゆりかご（干潟・藻場）再生による里海づくり」プロジェクトの Jブルークレジット®を購入いたしました。Jブルークレジット®とは、JBE（ジャパンプルーエコノミー技術研究組合）が認証・発行・管理しているブルーカーボン※クレジットであり、ブルーカーボン生態系を保全・再生し、脱炭素化へ向けた取組みを加速させるための新たな制度として注目されています。当社では、令和4年度にも3件のプロジェクトの Jブルークレジット®を購入しており、各地域におけるブルーカーボン生態系の保全・再生活動に貢献しています。（2023年9月時点の総購入量：2.4t-CO<sub>2</sub>）

※ブルーカーボン…海草藻場、湿地、干潟、マングローブ林等の海洋生態系によって隔離・貯留される炭素のこと。ブルーカーボン生態系は、CO<sub>2</sub>吸収源として重要視されている。



Jブルークレジット®購入証書

## ◆ 入社社員紹介

### 営業部

#### 角田 恭輔

6月付で採用頂きました。  
前職が携帯キャリアの代理店勤務だったので、建設コンサルタント業界は全くの未経験であり、ゼロからのスタートとなるので毎日が勉強です。  
いち早く戦力になれるよう精進いたします。

【趣味・特技】 ゲーム、筋トレ



### 防災系事業部 海象解析部

#### 古泉 周子

15年のブランクを経て、7月から嘱託社員として海象解析部に配属になりました。  
技術の進化に追従すべく脳内をアップデート中です。ご指導ご鞭撻をお願いいたします。  
一児の母。毎日笑顔で挨拶！を心がけています。

【趣味・特技】 国内旅行、着付、収納



### 構造系事業部 調査設計部

#### 林田 航祈

9月より九州調査設計部に所属となりました。前職で同じ港湾土木の仕事をしていましたが、エコーではより難しいことをしていくことになるので、新しい知識を頑張っ  
て身に付けていきたいと思ひます。少しでも早くお力になれるよう頑張りたく思ひますので、何卒よろしくお願ひいたします。

【趣味・特技】 サイクリング、映画鑑賞



## 令和4年度業務表彰

### 1. 優良業務表彰

受賞業務	表彰者
令和4年度 茨城港常陸那珂港区事業評価資料作成業務	国土交通省 関東地方整備局長
広島港出島地区岸壁細部設計等	国土交通省 中国地方整備局長
港湾における気候変動を考慮した高潮・波浪推算業務	国土交通省 国土技術政策総合研究所長
八戸港八太郎・河原木地区航路泊地(埋没)付帯施設構造検討業務	国土交通省 東北地方整備局 仙台港湾空港技術調査事務所長
R2利根川下流部水面利用検討業務	国土交通省 関東地方整備局 利根川下流河川事務所長
令和3年度 東京港中央防波堤外側地区岸壁(-16m)(耐震)実施設計等業務	国土交通省 関東地方整備局 東京港湾事務所長
令和4年度 衣浦港防波堤構造検討業務	国土交通省 中部地方整備局 三河港湾事務所長
柴山港柴山地区外防波堤(西)維持方策検討業務	国土交通省 近畿地方整備局 舞鶴港湾事務所長
松山港整備計画検討業務	国土交通省 四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所長
令和4年度 菊田港経済効果検討業務	国土交通省 九州地方整備局 菊田港湾事務所長
令和3年度 那覇港港内静穏度検討業務	内閣府 沖縄総合事務局 那覇港湾・空港整備事務所長

### 2. 優秀技術者表彰

受賞者	業務名	表彰者
白井 英一	令和4年度 茨城港常陸那珂港区事業評価資料作成業務	国土交通省 関東地方整備局長
	松山港整備計画検討業務	国土交通省 四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所長
團村 肇	広島港出島地区岸壁細部設計等	国土交通省 中国地方整備局長
	新潟港(西港地区)航路泊地付帯施設護岸(西)基本設計	国土交通省 北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所長
中村 隆志	令和3年度 東京港中央防波堤外側地区岸壁(-16m)(耐震)実施設計等業務	国土交通省 関東地方整備局 東京港湾事務所長
	八戸港八太郎・河原木地区航路泊地(埋没)付帯施設構造検討業務	国土交通省 東北地方整備局 仙台港湾空港技術調査事務所長
久保田 徹	新潟港(西港地区)航路泊地付帯施設護岸(西)基本設計	国土交通省 北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所長
宇根 大介	R2利根川下流部水面利用検討業務	国土交通省 関東地方整備局 利根川下流河川事務所長
安田 将人	令和4年度 衣浦港防波堤構造検討業務	国土交通省 中部地方整備局 三河港湾事務所長
田中 聡	令和3年度 那覇港港内静穏度検討業務	内閣府 沖縄総合事務局 那覇港湾・空港整備事務所長



<https://www.ecoh.co.jp>  
編集・発行 経営企画部



本社/〒110-0014 東京都台東区北上野 2-6-4 上野竹内ビル

TEL : 03-5828-2181 FAX : 03-5828-2175

事務所/北海道・東北・青森・秋田・岩手・北陸・富山・茨城・埼玉・横浜・中部・静岡・近畿・神戸・三重・中国  
鳥取・島根・四国・高知・九州・福岡・大分・鹿児島・沖縄・ソウル・マダガスカル・モザンビーク